

## 投資の基礎講座 「ちょっとだけでも経済学の本を読んでみましょう」

CFP®認定者  
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

サブプライムローン、インフレーション、スタグフレーション、流動性供給など投資について考えるにあたっては、様々は経済用語や経済事象が出てきます。今週の14日には昨年10 - 12月期のGDPの速報値も発表になります。

経済事象がどのような状態で起こっているのか、あるいは経済指標が発表されたときにどのようなことが原因になっているのか、今後どのように景気に変化していくのかを考えるには、経済学の知識がある程度必要です。また、経済学の基本的な知識があれば金利や株価、為替などがどのように動いていくかをある程度見通すことができます。もちろん、経済は生き物であり単純にAと言うことが起これば必ず将来Bということが起こるとは限りません。しかし、一方で機関投資家といわれる人たちは、経済学の知識を前提に様々な事象を捉え運用を行っていますので、その知識があれば機関投資家の動向を予測することもできるわけです。

といっても、決して難しい本を読む必要はありません。やさしい経済学の本を1・2冊読んでみてください。学生の頃とは違い、試験のための勉強ではありませんから、気楽な気持ちで読めますし、意外と新しい発見ができるかもしれません。

私が読んだ本の中では「基礎からわかるマクロ経済学（家森信善 著 中央経済社）」や「アメリカの高校生が学ぶ経済学（ゲーリーE.クレイトン 著 WAVE出版）」などが肩がこらずに読める本だと思います。後者の本はアメリカの高校生向けのものを邦訳したものですので、アメリカの事例を基に書かれていますのでちょっと違和感があるかもしれません。

## 先週の金融市場データ

## スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成20年2月12日現在

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	13,859.70円	13,859.70円	13,017.24円	13,017.24円
TOPIX	1,364.72	1,364.72	1,287.14	1,287.14
ニューヨークダウ平均	12,635.16ドル	12,635.16ドル	12,182.13ドル	12,182.13ドル
NASDAQ	2,382.85	2,382.85	2,278.75	2,304.85
10年国債利回り	1.465%	1.475%	1.415%	1.415%
5年国債利回り	0.930%	0.950%	0.870%	0.880%
無担保コールO/N	0.502%	0.509%	0.495%	0.500%
米国FFレート	3.0000%	3.0625%	2.5000%	3.0625%
米国10年国債利回り	3.64%	3.76%	3.57%	3.64%
ドイツ10年国債利回り	3.93%	3.93%	3.84%	3.86%
ドル/円相場	106.71円	107.50円	106.27円	107.50円
ユーロ/円相場	158.39円	158.39円	155.46円	155.66円
1ユーロ=ドル	1.4840ドル	1.4840ドル	1.4477ドル	1.4477ドル
豪ドル/円相場	96.66円	96.75円	94.96円	95.98円
NY原油先物(WTI)	90.02ドル	91.77ドル	87.14ドル	91.77ドル
NY金先物	909.40ドル	922.30ドル	890.30ドル	922.30ドル

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%

## 国民経済計算 SNA (A System of National Accounts)

内閣府は8日「平成18年度国民経済計算確報(ストック編)」を発表しました。土地や建物などの資産から負債を差し引いた国の賞味資産(国富)は平成18暦年未で2716.6兆円で前年未比2.9%になったそうです。

国民経済計算(SNA)は、一国の経済を共通の国際基準(モノサシ)により、様々な側面から系統的・組織的に把握し、それを記録することで、その国の経済の全体像を明らかにしようというマクロ統計です。

そのうち、経済全体について生産、分配、支出(消費、投資等)といったフローの面を記録したものがGDP(国内総生産)です。一方、8日に発表した「ストック編」は実物資産(モノ)と金融資産・負債(カネ)、正味資産(国富)といったストック(国民貸借対照表)を表したものです。

国富が9年ぶりに増加し、資産デフレが底入れしたと見ることができます。(もっともこのデータは平成18年末、つまり1年以上前のものですので、最近の株価の下落で再び国富が減少してきたかもしれません。)

## 今週の株式相場見通し

先週の株式相場は円が弱含んだことやヤフーへの買収提案などから週初は上昇して始まりました。しかし、米株が景気後退懸念から値を下げると国内株式も売り優勢となり6日の日経平均株価は646円安と今年2番目の下げ幅、週末には機械受注の悪化を嫌気して一時13000円を割り込む場面もあるなど総じて弱含みの展開となりました。

今週の株式相場は、下値固めから徐々に下値を切り上げていく展開が予想されます。先週のG7の共同声明に対するインパクトは小さいと見られます。しかし、米財務長官は世界金融市場の最近の混乱に危機感を示し、迅速な金融政策を行うことを仄めかしており、米株相場が徐々に落ち着きを取り戻し、つれて国内株式相場も徐々に下値を切り上げていくものと思われます。一方で、サブプライムローン問題で格下げ懸念がある証券化商品の損失見合いの株式売却などもあり、値動きの荒い展開は続きそうです。

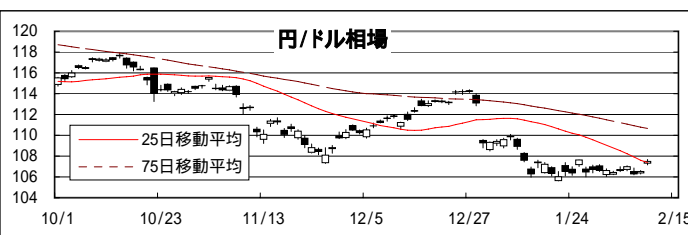
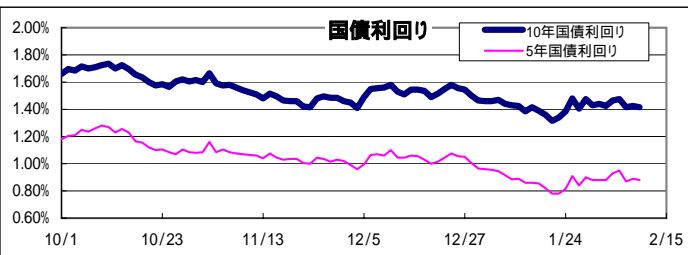
## 今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、株価の反発と10年国債の入札を控え軟調に始まったものの、5日以降は株価の下落に呼応する形となり、6日には10年国債利回りが1.400%まで低下しました。しかし、インフレ懸念も出てきていることから大きく買い進まず1.4%台前半での推移となりました。

今週の債券相場は、やや軟調な展開が予想されます。資源が再び高騰してきたことから債券を大きく買い進むにはリスクが大きくなってきました。利益確定の売りが出やすくなってきており、10年国債利回りで一時的に1.50%を覗く場面がありそうです。しかし、景気後退懸念も根強くすぐに買戻しが入ることから10年国債利回り1.40~1.50%程度での推移となりそうです。

先週の為替相場は、G7を前に売買を手控える動きとなり1ドル=106円台半ばを中心とした狭いレンジで推移していましたが、週末にECBの利下げの噂からユーロ安、円安となりました。

今週の為替相場は、G7で協調利下げへの言及は無かったものの各国の適切な対応を求めていることから為替相場は比較的落ち着いた値動きとなるものと思われます。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。